

はじめに

保健医療学研究科では、保健医療学分野の医療で高度な専門職業人を養成し、保健医療学の分野についての豊かな学識を養い、専門的で、先端的かつ独創的な高度な研究活動を自立して行える能力を高め、保健医療学の発展を促進し、国内外への研究成果を発信できる教育・研究者を育成します。さらには、社会に貢献する医療人を輩出し蓄積してきた昭和大学の医学・医療の実践と研究の知を礎にして、社会の変遷に伴う、ひとびとの保健医療への多様な要請に応え、その健康・QOLの維持・向上に寄与することを使命としています。

本保健医療学研究科における保健医療学とは、現代社会で生じる健康問題とその多面的要因を研究し、実行可能な対策を考える医療の一分野で、あらゆる健康レベルに関連する生活機能とその障害を取り扱う学問であり、健康保持・増進、疾病や障害の予防、生活機能の回復にかかわる教育・研究を行う分野であると定義しています。また健康の概念が「健康とは病気ではないこと」のみならず、「病気であっても積極的な健康への取組み」も含むように変化してきている。そこで「健康」について科学的に教育・研究し、それにより健康維持増進に貢献することを目指しています。

保健医療学専攻博士後期課程では、運動機能や精神機能等の種々の障害に係わる領域の修士課程（博士前期課程）修了者に対して、①生体機能障害の原因究明の基礎となる形態・機能・病理病態解析、②生活習慣病に基づく内部障害リハビリテーション、③精神障害リハビリテーション、④運動障害リハビリテーションに係わる基礎と臨床に関する領域の学術理論および応用研究の教育・研究を行い、四領域が協力し、複雑かつ多岐にわたるリハビリテーション領域の重要課題に取り組む「リハビリテーション領域の保健医療学」を担う教育・研究者の育成を目指します。

保健医療学研究科長
副島 和彦